

上演 4

2024年7月31日4校目  
開催県代表

岐阜県立長良高等学校

「星観る者ども」

第48回全国高等学校総合文化祭  
第70回全国高等学校演劇大会

講評文

生徒講評委員会 担当委員

香川県立観音寺第一高等学校

渡邊凜音

中世では今や当たり前となった地動説を認めてもらおうとレティクスや書記官、同行人が旅をしながら聖地を回り、多くの人に説を広めようと奮闘していた。時代は巡り、高度経済成長期の日本では、文化服装学院に通う学生たちが切磋琢磨しながらファッションデザイナーとして認められようと健闘していた。最後に現代では、高校の演劇部員たちが大会で「銀河鉄道の夜」をモチーフにした作品を上演することを目標に、裏方同士の意見が噛み合わないなどの様々な問題に直面しながら、上演に向かって心を一つに戦う姿が描かれている。中世、昭和、現代の一見なんの繋がりもないような3つのストーリーが交差し、時空や想像力の旅をしていた感覚になり、見いてとても心躍る劇だった。

タイトルの「星観る者ども」から想像されるのは、天体の星であり私たちが普段何気なく見上げて見る星のイメージが強い。しかし、この作品中での意味はそれだけではなく、自分が誰かに抱く憧れや演劇部員たちが自分たちの目標である大会の幕を上げること、書記官や同行人らが必死に訴えてきた地動説が正しいと認められることが、その人たちにとっての星であるという意味も込められているのではないだろうか。誰でも誰かに憧れたり、何かを目標に頑張ったりする事は、私たちにとっての星であり、その星に向かって努力し続けることが大切で、それを注意深く「観」て考えることが大切なんだと改めて気付かされた。

最後に舞台装置・転換についてだが、大人数を活かしてそれぞれの世界が徐々にならっていく様子を見る人が全部見ることができるのが長良高校さんにしかできないことであった。

他にも、階段の中に仕込まれた照明や螺旋状の吊りもの、影を利用した登場シーンなど計算され尽くされた演出は、物語を進めていく中で、登場人物のキャラクターや世界観を人に伝える手助けになっており、見ている人を劇の世界観に連れ込んでいた。誰もが憧れを持ち、その星に向かって、ひたむきに努力する姿がとても印象的な劇だった。

